

日程調整と内容充実を目的として実習連絡会

5施設看護臨地実習受け入れフル稼働

近森会グループ 看護部 教育委員会 委員長 岡本 充子 じゅんこ



日程調整の難しさ

2008年9月30日に開かれた第1回日程調整と実習充実のための会

看護部ではこれまで県内の看護師養成校3校から実習生の受け入れを行ってきました。昨年度より実習校が増え、各校の学生数の増加などもあり、日程や部署配置の調整が難しくなってきました。

また、実習での学びは学生個々の看護観を育て、今後の看護師としての基礎を作る大事なものであり、当院での実習が学生さんに良い学びを提供できる場となって欲しいと



の思いで実習を受け入れてきました。

実習受け入れ連絡会の必要性

そこで、2008年9月30日、2009年

度の実習日程調整と実習内容の充実を目的とした打ち合わせの会を開催しました。

今回は、お忙しいなか、医師会看護専門学校、高知中央高等学校、高知女子大学、高知学園短期大学、龍馬看護ふくし専門学校の先生方が参加してくださり、近森会グループからは看護部長、各院の総看護師長、近森会グループ教育委員長である私と各院の教育代表者が集まりました。看護部長より開催趣旨の説明を行い、参加者の自己紹介から始まりました。

まずは、次年度の日程調整から行っていました。重なる部分はそれぞれが自校の実習内容と他校の実習内容を考慮しつつ調整を行ってくださり、予定時間を超過しましたが、おかげさまで次年度の実習スケジュールが完成しました。

より充実した実習受け入れへ

また、実習内容の充実を図る意味で、学校単位で決まった病棟でのみの実習となっており、実習中に体験できる内容に偏りがあるのではないかと考えから、次年度より実習病棟を換えることとし、定期的の実習病棟を換えていくことで、より多くの学びが得られるようにしていくことにしました。

初めて実習校の先生方に一同に集まっていたいただきこのような会を開催しましたが、実習校と実習病院が協力してよりよい実習を行っていくための話し合いが行え、有意義な会になったと思います。この会を通して、実習内容自体についての中身の濃い意見交換もできたと思っています。実習にこられた学生さん達が有意義で楽しい実習ができ、こんな病院に就職したいと思えるような病院となるよう、今後とも実習内容の充実を図ってきたいと思います。

トヨタの生産方式



近森 正幸

11月に行なわれたVHJの職員交流研修会で、講師としてトヨタ自動車の技監をされている林南八氏をお招きし、トヨタの生産方式の本質についての話をしていただいた。天下のトヨタ自動車と私たち近森会グループの発想の基本がまったく同じであることに驚かされた。

たとえば、病院は「早い、安い、うまい（上手に）」の吉野家の牛丼であるとかねてからいっていたが、トヨタのモットー「良いものを、安く、タイムリーに」とは、求めているものが共通していると感じた。

さらに、「不良品ゼロへの挑戦」については、空床ゼロということ

あり稼働率100%への努力ということになる。アメリカへ初進出したときに直面したのは、100を越える職能を徹底的に見直す必要に迫られたことだった。これも、専門職、たとえば医師にしかできない仕事の明確化に通じる。

労働や設備、材料などのトータルの生産性を上げないと原価は下がらないということも、チーム医療で生産性を上げ、コストを下げることにつながる。とはいえ生産性は車が売れてなんぼであり、病院も患者さんがきてくれてこそ成り立つのである。

そして、製造業も、病院のような医療サービス業も、もっとも大切なことは「人づくり」であると改めて思い知らされた。

職場力、企業力の源泉は各部門を「スルーに連携する力」であり、病院ではチーム医療になる。そんなチーム医療を全国トップレベルで実践している近森会グループを、心の底から誇りに思う。

理事長・ちかもり まさゆき

患者さんに、より適切な栄養サポートを！ そして何より幸せを！

11月11・12日、東京都都市センターホテルにおいて第19回VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) の職員研修会が行われ、12日には研修会において近森理事長の提案により初めて「NST (栄養サポートチーム) 分科会」が設立されました。

当日は、会員病院から約50名の医療スタッフが集まり3時間という長い研修会でしたが活発な討論があり時間が足りなくらいの熱気がありました。

研修会にあたり会員病院に事前アンケートを実施しその結果を発表させていただきました。結果はNST症例数において平均421症例(1年間)であり、最大3648症例(近森病院)、最小23症例と大きな格差がありました。

また、カンファレンス回数は平均2.47回(1週間)であり、最大は14回(近森病院)でありました。VHJ会員病院は医療の質が高い病院ばかりであり、多くのチーム医療が展開されていることが示されていましたが、その中でも近森病院NSTが数多くの症例をサポートし積極的に活動していることが分かりました。

研修会では、手稲溪仁会病院、亀田総合病院、洛和会音羽病院、麻生飯塚病院、近森病院からの取り組みや課題、将来への展望を発表していただき、各々の素晴らしい発表とNST導入効果を示され、私たちが今後、進むべき方向性を見い出せたと思います。

近森病院からは真壁科長が報告し、たくさんのご質問をいただき、「注目されているNSTに成長できた」と実感した次第です。

今後は情報交換や交流を深め、NST中核病院としての責務を全うし、全国の患者さんに栄養サポートをさらに広げて行こうと誓い合い閉会しました。

※特定非営利活動法人VHJ機構は、医療の質の向上等を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開し、データベースの構築や情報の提供、また啓発活動などを通じて、保健・福祉の向上に寄与することを目的として、平成16年2月16日に認証を受けているNPO法人です。

臨床栄養部 部長 宮澤 靖



NST分科会のようす



右端に立つのは座長を務めた宮澤臨床栄養部部長

発表者の皆さん、左から順に、麻生飯塚病院の林勝次さん、洛和会音羽病院の佐々木由美さん、亀田総合病院の片多史明さん、近森病院の真壁昇さん、手稲溪仁会病院の大塚真奈さん

と私 内科 部長 深谷 真彦

聴診器 讃歌

もういまではこれはずいぶん一般的ですよ～

私は循環器科医なので聴診器には思い入れもあり、書くことはたくさんありますが、つい、いま使用している聴診器は何代目なのかと考えてしまいました。

学生時代から数えれば6代目になりますが、私の聴診器履歴を書いてみます。

私が学生時代には、象牙のベル型で2本の長いゴムの管がついた聴診器をよくみかけました。管は耳に当てる部分まで左右別々で、耳からポロリと落ちやすく、コツをつかまないと使用が難しいものでした。さすがに大学では使用している先生はいなくて、学生時代に購入した最初の聴診器はベルと膜型の部分が直角についている国産の安いものでした。管の部分が2本のビニール製でちょっと硬いなど難点がありました。

研修医になり、そして医員になった頃にリットマン型の国産品を購入しました。現在ではごく普通の、ベルと膜面が反対側にあり、管は1本のもので、循環器を専攻するようになって3Mの本物のリットマン聴診器に替えました。当時はこれがすごくスマートに見えました。

この頃、私の恩師になる橋場教授(現在は名誉教授)が米国から帰国して、みたこともない立派な聴診器を使用し、聴診所見には非常にウルサクなりました。これが名品の英国はリーサムスリーサムの聴診器でした。大きなベルと膜面の部分が直角についていて、ゴムの管は2本、大きく重いのが風格十分でした。私は負けじと大枚をはたいて高額なリーサムを購入。欠点は非常にかさばることで、白衣のポケットが窮屈に膨らんで、重いのので下へずしりと下がるのでした。せっかくの白衣姿が非対称になりました。性能は聴診器の最高峰といっているもので、当時の私は心音図などで確認しながら聴診技術を磨き、橋場先生に負けないようにと頑張りました。最も思い入れがあり、最も長期間使用した聴診器でした。

リーサムが壊れて5代目は、3Mのリットマン改良型にしました。改良型はごつくなりましたが性能と手軽さが両立していて、白衣のポケットにもなじみます。高知県に帰ってきて数年後にこれが壊れたので、同型の色違いを6代目として現在に至っています。

なんだか独りしじみじみと懐かしんでしまいました。スママセン。

顔面骨骨折に関する
学会発表の紹介

近森発！ 世界初!?

画像診断部の
精力的な取り組み



形成外科 部長
赤松 順

最近、頭や顔の骨の手術で、生体内で分解・吸収される固定材料が開発され、日本でも使用可能となりました。

十分な固定力があり、後日、除去する必要がありません。当科でも、顔面骨骨折の手術の理想的な骨固定材料であると考え、積極的に使用しています。

レントゲンに写らない性質があり、CTなどの検査でも、チタン製のように観察したい部分の邪魔をすることがありません。これは、頭の手術後の脳の画像診断時には、大きなメリットだと思います。

ところが、骨折の手術後に整復した状態に変化が生じた場合の固定材料の観察や、吸収過程で炎症反応が出現した時の固定材料の状態が観察できないなどのデメリットもありました。

そこで、画像診断部に、見えない吸収性骨固定材料を見えるようにできないか依頼しました。

近森魂で、根気良く、粘り強く取り組んでもらった結果、恐らく世界で初めて、3次元CT画像上での描出が可能となりました。

欧米では10年程前より使用されていますが、同様の報告はないようです。

去る9月7日、第56回日本形成外科学会中国・四国支部学術集会で中川以都香診療放射線技師が堂々と発表し、各施設より大きな反響をいただいています。

見えなかった

骨固定材料が見える！

また、患者さんへ説明する場合も、大 変わかりやすくなりました。感謝！

3次元CT画像における 生体吸収性プレートの描出



右は田中宏親さん
画像診断部 診療放射線技師
中川 以都香

形成外科の赤松先生から「一般にはX線写真やCT画像に写らないと言われていた生体吸収性の骨接合材を最近手術で使用し始めたのだが、何とか画像上で観察できるようにならないだろうか」という依頼を受けたのは、今年の春でした。そこで、田中宏親放射線技師と共に検討を始めたのです。

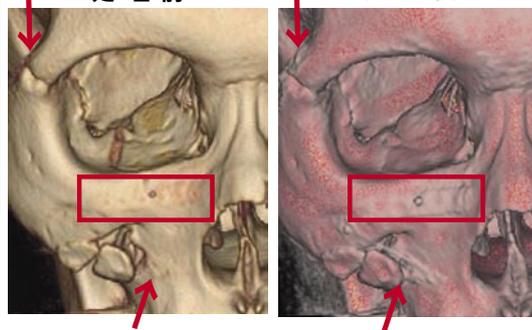
生体吸収性骨接合材とは、近年開発された新しい骨接合材で、金属製のものとは違い骨接合材自体が分解・吸収されるという大きな利点をもっています。

現在、近森病院で顔面骨骨折などの手術に用いられているのは、ポリ-L-乳酸-ポリグリコール酸コポリマー骨接合

【註】→の先と赤い枠の中に注目してください

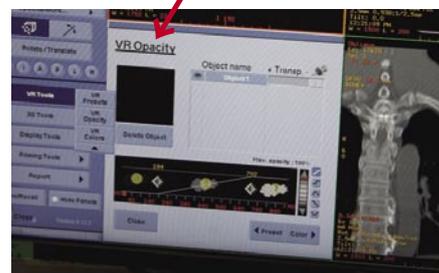
処理前

処理後



材（※つまり水と二酸化炭素の固まり）です。しかし、この骨接合材はX線を透過するので、X線写真や通常のCT画像で観察することができません。

そこで私たちは、CT画像から3次元CT画像を作成し、画像処理をすることによって骨接合材が観察できるようにならないか検討を重ねました。そして様々な処理を試した結果、VR opacityというパラメーター（下の写真）を、骨接



合材と骨接合材が固定されている骨表面以外を消去するように調整することによって、骨接合材が画像上で観察できることを発見しました。

このことは、それまで画像上で確認できなかった骨接合材の分解吸収の状態を観察できるようになり、術後の経過観察に非常に有用であると考えられます。このように画像上でこの骨接合材が観察された例は報告がなく、現在論文投稿中です。

● 12月の歳時記 ●

水仙



画 千光士 可苗

文 近森リハ病院 言語療法科 西本 早輝子



12月は、花が一番少ない季節ですが、新年に向けて水仙が咲き始めます。水仙は、本州・九州の海岸沿いに野生化し、「雪中花」とも呼ばれ、花の少ない冬を代表する花の一つです。ギリシャ神話で、美少年ナルシッサスが水面に映

自分の姿に見とれ、そのまま花になってしまったのが水仙だと言われているそうです。水仙は、園芸品種も多いのですが、日本に古来からある水仙はとてもよい香りがします。日本水仙は12月頃から咲き始め、お正月の生け花にもよく使われます。

回復期の口腔ケア

近森リハ病院 歯科衛生士

楠瀬 美佐

法人内で歯科衛生士がチーム医療のスタッフに仲間入りし7年目を迎えようとしています。

スタッフの口腔ケアに関する意識もずいぶん変わってきました。摂食嚥下委員会の活動や口のリハビリ認定講座の開催も年々充実してきており、口腔ケアのリーダーシップを担う看護師が増えてきていることは歯科衛生士にとっては大変心強いことです。

口腔ケア＝歯磨きだけではなく、口腔ケアには幅広い意味があり、メインは口腔衛生状態の管理ですが、口腔ケアを通して口のストレッチや表情づくりそして安全に口から食べられるように支援すること、肺炎予防のための全身のリスク管理と目的は様々です。歯科衛生士はただ単に口の中だけを見るのではなく、**口から全身を見るという視点**で多職種と連携をとりながら日々口腔ケアに臨んでいます。



回復期の口腔ケアは急性期の口腔ケアとは違って患者さんの全身状態も安定しており、口腔内環境も変化してきます。したがって、口腔ケアを通して口腔機能訓練などをケアメニューに加え、できるだけ口から美味しく食べられるような支援づくりを行っています。

元々の習慣や患者さんのADLも考慮しながらケア物品の提供や口腔ケア方法のアドバイスを行います。また、歯科の介入が必要な患者さんはかかりつけ歯科や地域協力歯科と連携をとりながら積極的に歯科受診を行っています。

急性期から回復期へと歯科衛生士間で連携がとれ、**できるだけ早期から歯科衛生士が介入**し、きれいな口腔内が保持できるようバトンが手渡されていますが、回復期の私たち歯科衛生士の役割は、入院中に保持できていた口腔内環境を維持できるよう、今後、在宅、転院先の施設へバトンを送っていくことです。



2008年度職員旅行

その2

●東京ディズニーリゾートへ(全3班)



●能登・和食温泉へ(10.22～24)

歓迎医療法人 近森会 主催



▲ちようど岡村奈保師長(前列左から4人目)の誕生日で、みんなで盛大にお祝いました!

▼能登半島を代表する景勝地能登金剛のシンボルは、高さ15m、幅6m、奥行き60mのこの「巖門(かんもん)」



▲能登の夏秋祭りの御神灯＝キリコカキ

新シリーズ★近森会交友録エッセイ

あれから20年あまり…

医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 教育管理部長 井上 郁

新シリーズ●近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもぜひお楽しみください！(ひろっぱ編集部)

高知女子大学家政学部看護学科を卒業し、看護師、保健師として勤務の後、渡米。1983年カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学部修士課程(長期ケア/老人看護学専攻)を修了し、修士号取得。帰国後、再び病院勤務で老人及び慢性疾患患者のケアのスペシャリストとしての役割をとる。その後、高知女子大学に講師、助教授として勤務。再渡米して、1995年オレゴンヘルスサイエンス大学看護学部博士課程(老人看護学専攻)修了し、博士号取得。帰国後再び高知女子大学に教授として勤務。2004年より医療法人社団 輝生会 理事。同法人初台リハビリテーション病院に勤務。2005年より現職。日本老年看護学会 理事 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 理事



私が近森病院に何うようになったのは、まだ時代が昭和だった時で、付き添い看護から基準看護に変えるための準備をしている時だった。大学の先輩である梶原看護部長に声をかけていただき、看護記録や看護過程についての院内教育に係らせていただいた。高知県内の民間病院ではまだ付き添い看護が主流で、基準看護を標榜している公的病院にさえ「付き添いさん」がいた時代である。

私自身は看護師だけでケアするのが当たり前という急性期病院での経験しかなく、高知の病院の状況とのギャップに驚かされていたので、近森の変わりとうするエネルギーを強く感じたことが印象に残っている。

後に回復期リハ病棟の制度化に大きな役割を果たすことになる近森リハビリテーション病院ができてからは、学生実習でもお世話になった。在宅総合ケアセンター近森の開設とその後の閉鎖は、その存在が大きかっただけに、地域の老人医療を考える上で非常にインパクトの強い出来事であった。

あれから20年余り、日本中で「近森」の名前は有名になった。院内研修や研究指導、コンサルテーションと多くの場面で係らせていただきながら、「近森」の変化にお付き合いさせていただいてきたが、そこで働くスタッフのよりよいケアをしたいという気持ちは変わっていないと思う。これからも地域医療の中で必要とされる次の時代のサービスの開発に果敢にチャレンジしていく「近森」であり続けてほしいと願っている。

●ユニバーサルスタジオ
ジャパンへ (10.18 ~ 19)

●ニュージーランドへ (10.27 ~ 11.1)



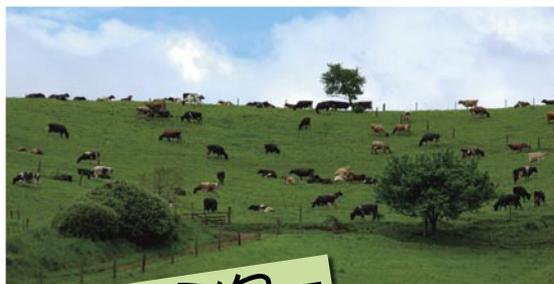
◀まるで託児所
がそのまま移っ
てきたような...



◀NZの馬の乗り心地に満足

▼観光名所のモナ・ベール庭園で

▼ロストワールド探検のワイトモ洞窟へ向かう途中、
イメージしていた通りの牧歌的な風景を堪能できた



いっぱい
ニコ会館で

腎透析センター

業界初!?

治療機器と部門システムを つなぎ、画面で集中管理

2002年4月から、7階の腎透析センターでは院内の電子カルテ化にあわせて「透析支援システム」が導入され、患者さんの治療データがパソコン登録されるようになった。さらに、この秋からは、もっと進んでデータ入力作業のいわば「全自動化」が図られることになり、スタッフの端末器械への数値データの転記作業が一切廃止されることになった。

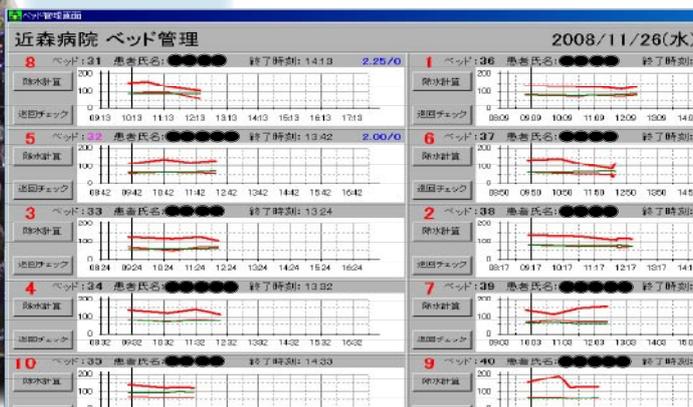
電子カルテになると、スタッフはパソコンの画面ばかりを見ているように思われるかもしれないが、患者さんの

データがそのままパソコンに登録されることになった分、スタッフの手間は大幅に省け、スタッフは患者さんのベッドサイドで過ごす時間が従来より多く確保できることになった。

さらに今回、より使いやすいシステムにするために、透析治療そのものをよく知る看護スタッフが、臨床工学技士と力を合わせて血液浄化記録の血圧、脈拍、体重、除水量などの記録をパソコン上で、いちどに確認できるような画面を作った。

これらによって、透析記録の転記や展開にかかる時間が減ることになり、この時間を利用して、人員の補充をせず、**糖尿病の外來患者さんのフットケア**に取り組んでいる。

血液浄化記録の血圧、脈拍、体重、除水量などの記録をパソコン上で一度に確認できるようになったパソコン画面▼



メリークリスマス

これは新館玄関横のツリーです。今年も四国管財の皆さんと施設年度課スタッフが協力し、キレイな灯が灯りました。



新シリーズ♥♥♥ 管理部長の

こだわり ヘルシー美食 1



川添 昇

最近ダイエットやメタボ対策など巷間喧(かまびす)しいが、先日『ひろっぱ』編集委員会で理事長より「ヘルシー美食」シリーズにしてはどうかとの発案つまり命令が下され、不本意ながら続けてみることにした。時には何がヘルシーだというレシピが出るかも知れないが、その節はご容赦いただきたい。

柑橘類と鮮魚刺身の イタリアン



画 臨床栄養部 科長 吉田 妃佐

〈作り方〉

- ①あまり甘くない柑橘類の袋から果肉を取り出しておく。
- ②白身魚(タイでもヒラメでも)とタコを薄作りにし、その他の具材としてアサリなどの貝の類や甘エビ・ユデカニのムキミなどもいいかもしれない。
- ③②に塩をして冷蔵庫で少し置く。
- ④③と①にオリーブオイルをからませて、味がボヤケているようであれば、レモン汁や塩で味を調える。食べる寸前に冷蔵庫から取り出す。

〈食べ方〉

ブロッコリーやカリフラワー・人参・きゅうりなどをボリボリ食べながらその合い間にこの刺身を食す。そして、スパークリングワインをグビグビ飲む。

何かヤケクソみたいだがその感じを曖(おくび)にも出さないでひたすらニコニコして食す。

美味しい野菜とお酒と楽しい会話。この三つが美食の原点だと思う。

忘年会シーズンに突入である。暴飲暴食はくれぐれも慎みたいと自戒している。

看護部 キラリと光る看護 その43

コーチングの功

看護部長 梶原和歌



看護部では2008年11月1日(土)、7時間をついやして『コーチング』の研修会をもちました。講師は札幌学院大学総合教育センターの北田雅子先生です。コーチングは「相手の自発的な行動を促すためのコミュニケーション技術」といわれています。

ほとんどの時間を3~4名が1グループになり互いに他のメンバーと聴き合い、つぎつぎグループをチェンジしていく演習でした。

聴く側の興味や先入観や劣等感などの感情が聴覚のフィルターとなっていることを体験し、前提を持たない「ゼロポジション」で聴くことの大切さを実感しました。

「人間の持つ性質のうちで最も強い

ものは、他人に認められることを渴望する気持ちがある」ことを理解し、話を聴くことが相手を受け入れる承認のメッセージとして相手に伝わるということで、まずは自分自身を承認するアピールなどを語り、笑いころげました。

また会話の中で現状を知るための質問や目標・動機を知るための質問、障害やサポートできることは何なのか質問して行動を促す質問のあり方などを体験し合いました。

研修終了後のアンケートでは「グループワークがとても良かった・良かった」が96%・普通4%、「自分の部署で活用できる・まあできる」が94%・わからないが6%、「今後参加型の研修を企画して欲しいかどうか」で

は91%が企画してほしいと望んでいました。

わずか1分でも真剣に集中して聴き、内容を反復確認する方法でほぼ正確に思いや情報をキャッチできました。外来・ベッドサイド・仲間同士、生かしあいたいものです。

昇格
しました。

乞熱烈応援



主役である利用者の皆さんの伴走者として

訪問看護ステーションラポールちかもり
所長 久保 博美

精神科医療の、『入院から在宅へ』という厚生労働省施策は急速な勢いで進んでいます。今後一層、患者さんの退院後のスムーズな在宅生活への移行が求められており、そのお手伝いを当ステーションはさせていただいております。これまで利用者の皆さんがご自身の力で、自分らしく地域の中で生活されている姿に感銘を受けつつ、ともに悩み考え、笑い喜びながらの日々であったと思います。

私は平成7年に近森会管理部に就職し、「精神科看護がやりたい」という希望にて退職・進学・再就職というわがままを受け入れていただきながら、周囲の皆様のおかげで今の仕事とともにあると感じております。

このたび責任ある役割をいただき、悩み、いまだ不安もいっぱいではありますが、引き続きご指導、ご鞭撻いただきながら一歩ずつ進んでまいりたいと考えております。これからも利用者の皆さんの、少し後方からの伴走者として、応援させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

リレーエッセイ

仕事用の服選びとアイロンかけ

近森リハ病院 医療相談室

小野川 剛史

「近森会の新人ソーシャルワーカーは白衣を着る」という伝統があります。私が近森会に就職して、1年半経ちましたが、先日ようやく白衣を卒業しました!「気合入れて頑張るぞ!」と日々の業務に取り組んでいるのですが、白衣を卒業したことで少し悩んでいることがあるのです。

それは「仕事用の服選びとアイロンかけ」です。私服選びとは違い、ソーシャルワーカーとして病院で働いているので「好きだから」という理由のみではいけないと……と選んでいるはず……。が!実はかなり大ざっぱ(A型ですけど)な性格が災いし、「まあいっか」と試着なしで選びたい自分と、「いやいや、ちゃんと考えて買わない」という自分がいつも格闘してしまいます。

その結果、私服を買うよりも時間がかかっている状況です。それに加え、シャツのアイロンかけ……。アイロンかけなんて、恥ずかしながら、高校の野球部の背番号以来!な訳で



こんな風に毎日格闘中ですが、トホホ……

して、これがなかなか難しい!白衣を着ていた頃は隠れていたシャツ……今は毎日格闘中でございます。アイロンかけが上手くなる方法はないですかねえ……?

業務以外に時間をとられるのは大変ではありますが、一年前には味わえなかった大変さです。白衣を卒業するに至るまでの間ご指導いただいた方々に感謝しながら、日々、アイロンと格闘していきたいと思ひます。

訴えに素直に耳を傾ける

脳や脊髄、末梢神経や筋肉の病気が対象で、パーキンソン病をはじめとしたカタカナや漢字の難しい病名が対象疾患に挙げられる神経内科。素人目にはいかにも奥が深そうな内科だが、山崎正博部長から「要するに、頭の先から足の先まで全身を診ることが求められ、検査に頼らず、病歴と診察所見から、きちんと診療を行なう科」だと説明されると、少し理解できた気になりはしないだろうか。

山崎部長から「症例数をいかに増やすか、患者さんの訴えをいかにきちんと聴けるかにかかっているが、エキスパートに育ててもらいたい」と、熱い期待を寄せられているのが今号のおふたり。

「私たちより山崎部長をもっと前にアピールしてください」と、それがこんなポーズになりました



森千祥先生の物語

まず写真左の森先生を理解するキーワードは「デトックス(毒を出す健康法)」といえそうだ。当直明けの朝日の美しさにしみじみと感動し、お日さまに元気を与えられたり、渡り廊下から見上げる青い空で充電しているという毎日なのだから、「自分自身が納得のできる自給自足生活が目標」となるのも頷ける。

高校3年の4月、「漠然と将来は地震予知や地質学の勉強をしたい」と思っていた頃、たまたま父上が交通事故に遭い、「もう助からんやろうと諦めていたのに近森病院で助けられ…。そんなことがきっかけで医学の道を志すようになり、「慌てて勉強を始め、ちょっとモタモタと」医学部に入り、以来「自分のやりたいペースでやってきて」今日がある。「患者さんとじっくり向き合い、病気の背景にある生活を見つめて、なんでこの病気になったのか根本を詰めていく」のが、いまやりたいことだと感じている。

患者さんの「思いグセ」のようなもの

と発症の関係にも興味が湧くそうだが、近森病院で「臨機応変の対応」を求められていることが、今後への何よりの財産につながっていると話される。

海や山や川、自然が大好きで、クーラーやケイタイや、お肉が大嫌い。農薬のかかっている危険性のあるものはできるだけ口にしたくないし、意識のうえでは常に10年先、20年先の生活を想定して過ごしたい。つねにそんなことを思われているせいかどうかは知らないが、森先生の頬っぺの透き通るような透明感は、できるだけ毒を体内に取り込まず、自然により近い生活態度に努められている成果!ではないのだろうか。

おじいちゃんに命名された「千のおめでたいことがある名前(=千祥)」の通り、「自分のやりたいことが好ましい方向だと思ったら、時代が応援してくれる世になった」と、思える、誠に天下泰平、シアワセな日々が流れている。

橋本恵子先生の物語

続いて写真の右、橋本恵子先生の物語。先生が毎日を安寧に充実して過ごせる根本には、どうやら幼稚園時代の先生の存在がとてつもなく大きいらしい。つまり、「どんな人にも愛情をいっぱいに降り注ぎ、どんな子をも嫌うことがなかった優しさ」がずっと心に残り、「いつも何かあるたびに、あの先生のようになりたいたいと思いつけて」今日に至っているのだと、橋本先生の目は輝いている。

恩師の存在を幼稚園時代にまでさかのぼれるのが、橋本先生の純粋で幸せなところなのだろうが、「周りの皆さんに支えられて」という言葉が何度も出てくる謙虚さが、周りに幸せを運ぶ天使のように、橋本先生を見せているのではないだろうか。

父上は香南市の赤岡医院で内科や神経内科を専門とされている。しかし、だからこそ「こんなたいへんな診療科は自分には無理」だと思った時期もあったよ

飼ってくださる方を探して興味を持ってください
ささいなご連絡ください



森千祥先生↓

橋本恵子先生↓

←山崎正博部長

森先生の
いま一番の
癒したち

念のため
アップ

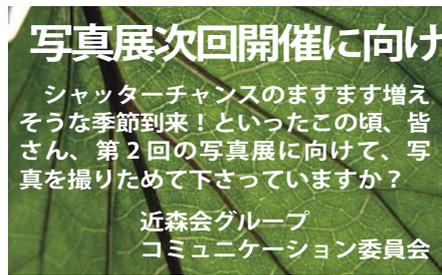
うだが、研修を経て、「患者さんの困っている状態を直接に聴き、そのうえで何が原因なのか探る、そのなかなか診断のつかない道のりの長さ」が、また神経内科医の魅力にも繋がったようである。

五人兄弟の上から二番目で、皆が医療に携わる医療一家で暮らしてきた。小さい頃から学校の成績面にしても、「ずば抜けたところはなかった」とはご本人の弁だが、母上に「好きなことに関してはコツコツ努力のできるタイプ」だと認められたことが印象に残っているという。

周りに分け隔てなく愛情を注いだ幼稚園の先生や、コツコツ続ける努力を認めてくれた母上など、橋本先生が「単純で、色々なことがスーッと抵抗なく入るタイプ」だとして自身のことを肯定的に思える「素直さ」を武器にできるのは、そんな幼稚園の先生や母上の存在のおかげなのだろう。

二人の先生の物語

神経内科医という職種にはきつと不可欠の、「訴えに純粋に耳を傾ける姿勢」を山崎部長は「二人の先生の頼りになるところ」に挙げられたが、患者にとって「安心して話を聴いてもらえる」のは、何よりの救いになるに違いない。



2008年 10月の診療数		企画情報室
近森会グループ		
外来患者数	18,181人	
新入院患者数	789人	
退院患者数	791人	
近森病院		
平均在院日数	14.60日	
地域医療支援病院紹介率	82.42%	
救急車搬入件数	389件	
うち入院件数	203件	
手術件数	399件	
うち手術室実施	264件	
うち全身麻酔件数	161件	

編集室通信

▼職員旅行も終盤に近づきました。どんな体験がありましたか。パリに行かれた方のなかにはルーブル美術館の肖像画「モナリザ」に直面して感動された方もおられると思います。私はその微笑に負けない土佐の仏像の微笑みに香美市立美術館で出会い、心底、癒されました。ダ・ヴィンチの絵画も凄いけれど、平安時代・鎌倉時代の湛慶などにより製作された木彫りの温かい仏像たちや6体の神仏混合ユニークなお地蔵さんの明るさに触れ、地域の人々の暮らしや祈りのなかで保存されてきた土佐の風土と文化遺産にも驚きました。明るい笑顔は病院にも必要ですね。よいお歳を!(歌)

図書室便り

《2008年10月受入分》

- ・内科学 第9版/杉本恒明(他総編集)
- ・ハリソン内科学 第2版/福井次矢(他監修)
- ・臨床・病理 乳癌取扱い規約 2008年9月第16版/日本乳癌学会(編集)
- ・臨床・病理 原発性肝癌取扱い規約 2008年2月第5版/日本肝癌研究会(編集)
- ・専門医のための精神科臨床リユミエール4 精神障害者のリハビリテーションと社会復帰/松原三郎(責任編集)
- ・PF スタディ解説書 成人用 青年用 児童用/林勝造
- ・入門医療統計学 Evidence を見出すために/森實敏夫
- ・SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析 第2版/石村貞夫(他著)
- ・介護保険・医療保険訪問看護の手引き 平成20年4月版/社会保険研究所(編集)
- 《別冊・増刊号》
- ・画像診断 別冊 KEYBOOK シリーズ 知っておきたい泌尿器のCT・MRI/山下康行(編集)
- ・別冊 整形外科 54 上肢の外科-最近の進歩/長野昭(編集)
- ・別冊 医学のあゆみ 脳卒中のパラダイムシフト-Brain attack 時代の最新の動向/内山真一郎(編集)
- ・デンタルハイジーン 別冊 健康で美しい口腔をつくる歯科衛生士のための審美歯科入門/宮崎真至(他編著)
- ・臨床スポーツ医学 Vol.25 臨時増刊号 予防としてのスポーツ医学 スポーツ外傷・障害とその予防・再発予防/臨床スポーツ医学編集委員会(編集)
- ・INFECTION CONTROL 2008年 秋季増刊 決定版 現場を変える!徹底させる!手指衛生パーフェクトガイド/洪愛子(編集)
- 《DVD・ビデオ》
- ・Audio-Visual Journal of JUA vol.14 No.4 / 日本泌尿器科学会(監修)

お詫び

※268号(11月)の7面「回復期リハ病棟の評価」で、この春の診療報酬改定により「入院料が①1,740点、②1,690点、③1,595点の3層構造となった」とすべきところ、番号を囲む○が欠落し、点数が5桁になってしまいました。ごめんなさい。(ひろっば編集室)

わたしのこの一枚 近森オルソリハ病院4階病棟 かみむら 上村 絹子

オールドパワー!?全開 わたしの唯一の趣味の話

オルソ4階病棟の最年長ナースで～す(^^)。4階は医師も看護師も他スタッフもみ～んなピチピチヤングの病棟です。もちろん師長もピチピチですよ(^^)。

わたしの唯一の趣味は絵を描くことですが……、最近は絵画教室と委員会と重



なっていて教室は休みがち……それでも今年は2作品仕上げました。

オルソで定年まで働けることを目標に、定年後はオールドパワー展に出品することを楽しみにして、今はオルソでオールドパワー全開で頑張っています。